



旅立ちの「春」を迎えるために

校長 小川 秀人

二十四節気の「小雪」（今年 11 月 22 日）を過ぎ、「大雪」（同 12 月 7 日）に向かおうとする季節。23 日には初雪が舞い、冬の訪れが実感される天気となった。学校の周囲の木々もあらかた葉を落とし、冬に向かう準備を整えた。余計な飾りの一つもない裸の木々を見ていると、これから進路試験に向かおうとする三年生一人ひとりの顔が、自然と思い起こされる。旅立ちの「春」を迎えるために、あなたたちはこの先の厳しい「冬」の寒さに、たった一人立ち向かわなければならない。夏の初めの校長面談で、私に語った自分の将来の希望を簡単に諦めてしまうことなく、ここから四ヶ月ぐっと奥歯を噛みしめ、一歩ずつ確かな歩みを重ねてもらいたいと願わずにいられない。試験だから、当然不合格通知を受け取ることもあるだろう。いつまでもそれを引きずっていないで、顔を上げて次に向かうこと。諦めさえしなければ、山に登るルートは幾通りもあるし、回り道に見えて実はそれが志望達成への一番確かな道だったりもする。うずくまっているだけでは、新たな世界は開けない。さあ、もうひと頑張りしよう。

最後に、私の敬愛する「むのたけじ」さんの詞を三つ紹介してみる。

- ・ 夜の終わりに朝がくる。しかし、夜明け直前の闇は最も暗い。（詞集『たいまつ』詞番号 10 番）
- ・ 雪国でくらしっていて美しいなあと思うながめは、真冬の落葉樹である。烈風にたえ寒気をしのぐために、必要ぎりぎりのもの以外の一切をすて去って、あばらぼねだけになって立っている木々の姿である。春に最も近く位置しているものは、あきらかにそのような木々ですね。（同書 詞番号 34 番）
- ・ 木の葉は古くなると、それだけで散るのではない。翌春に萌え出る芽のいのちが葉柄の根もとに満ちてうずくるとき、枯れ葉は風がなくとも散っていく。（同書 詞番号 36 番）

1, 2 年生も含めて、二学期末・後期中間の試験が始まった。卒業・進級に向けた大切な試験である。しっかりと準備をして、逃げることなく立ち向かってもらいたい。逃げぐせをつけてしまうと、人として絶対逃げてはならないときに、逃げてしまうことになる。体調管理も含めて、今ここが頑張りどき。今頑張らずに、いつ頑張る。

二学年修学旅行 晩秋の西日本へ

出発の日こそ小雨模様であったが、それ以外はおおむね曇り空、京都での班別自主研修の日は晩秋の明るい陽光に恵まれ、全ての行程を、充実して終えることができた。出発した12日は、新幹線と連絡船を乗り継ぎ、一気に「世界遺産」安芸の宮島まで向かうという強行軍。翌日には厳島神社を駆け足で回った後、広島平和記念公園に移動。平和セレモニーを行い、メモリアルホールで被爆体験講話をお聴きするなどして研修を深め、平和への思いを新たに。午後には京都に移動して、清水寺のライトアップを見学。三日目はバスで薬師寺、奈良公園、東大寺、春日大社、法隆寺とクラスごとに巡った。四日目の京都自主研修では、この時期としては最高の天候に恵まれ、各班充実した研修を行うことができた。現在日本にある21の世界遺産（文化遺産17・自然遺産4）の中の5つまで今回見たことになる。大きなトラブルもなく、196名の生徒全員が修学旅行を終えることができて、何よりであった。高校時代の大きなイベントを、充実して終えた二年生の今後の成長に、心から期待したいと思う。

全国大会、東北大会へ名乗り

祝 県高校放送コンテスト新人大会 全国切符

今月5日に、山形市中央公民館を会場に行われた「第25回 県高校放送コンテスト新人大会」のアナウンス部門において、**三木ともよ**（2-5）が第2位となり高文連賞を受賞するとともに、来年行われる**全国高校総合文化祭佐賀大会**の出場切符を手中にした。アナウンス部門では**尾形日花里**（2-4）が4位、**佐藤李香**（2-2）が11位で、また朗読部門でも**白田綾奈**（2-4）6位、**冨澤美恵**（2-2）が9位、**今田春花**（2-3）が10位にそれぞれ入賞し、宮城で行われる東北高校放送コンテストへの出場権を獲得した。また放送部は、下記の三部門においても素晴らしい成績を上げ、日ごろの活動の充実ぶりをうかがわせる結果を残してくれた。

【オーディオピクチャー部門】高文連賞受賞 「OVER THE BORDER」

【ラジオキャンペーン部門】第6位 「私の好きなこと」 ●

【テレビキャンペーン部門】第1位 「僕が夢とわかった瞬間（とき）」 ●

第6位 「全力の向こう側」 ●

●印のついた3作品は第22回東北高校放送コンテスト宮城大会に出品決定

本校文化部は、この秋に行われたコンクールやコンテスト、大会において素晴らしい活躍を続けており、全国大会出場を果たした部だけでも三つ（美術、放送、新聞）を数えている。伝統ある書道部も力をつけており、これからアンサンブルコンテストに出場する吹奏楽部にもぜひ上位大会を目指して頑張ってもらいたいと思う。